

【前年度の改善事項に対する 30 年度の取り組み】

①保護者同士の連携の機会を検討していく

講習会兼保護者会を実施。本部より講師を招き「こどもとのかかわり方」をテーマに講演と意見交換の場を設けた。

②地域にひらかれた事業運営を図り障害のない子どもたちとの交流を検討する

夏休み中、近所の公園で開催された地域祭りに参加し、他の地域の子どもたちと共にお神輿を担いで町を歩いた。

③ヘルメットの購入と避難訓練の実施する

ヘルメットを購入し、避難訓練を 2 回実施した。様子を LINE で保護者の方へ報告し、HP でも公開した。

④他の支援機関との連携を強化する

相談支援事業所、他の支援機関との担当者会議に加え、保護者や学校関係者との連携者会議を実施できた。

【30 年度の評価結果】

職員による自己評価

A 環境面

環境面に関しては適切であるが、体の小さい児童に見合ったサイズの学習環境（机、椅子・入口の段差等）が整えられると尚良い。

B 児童への支援内容

毎日のミーティングで指導内容について職員間の情報共有や、振り返りは適切に行っている。また、それを基にした記録を残し、課題を検討して支援計画に反映している。

C 関係機関との連携

保護者との連携は引き続き、LINE や面談で行う他、情報共有システムを活用していく。就学前の保育所や、発達支援センターなどの専門機関との連携に関しては今後も積極的に行えるような体制を整える。

D 保護者への説明責任・信頼関係

送迎の受け渡しの際に、教室での支援内容を報告し、保護者からの相談を受けることも多くその都度対応をしている。ご要望に応じて、面談・電話相談等の機会を設け、やりとりを密に行っている。

E 非常対応

避難訓練は年に 2 回実施しているので、引き続き全員参加を徹底する。感染症やアレルギーなどの対応や虐待・身体拘束についてもマニュアルの振り返りを定期的に行う。

保護者による評価

A 環境面

活動スペースの確保、職員の配置数・専門性に関しては適切だが、バリアフリー化の観点で教室の様子を把握していない保護者もいた。

B 児童への支援内容

放課後等デイサービス計画や活動プログラムに関しては満足度が高いが、活動プログラムの固定化に懸念する声もあった。

C 保護者への説明等

支援に関する説明・報告はなされているので、情報共有システムの導入でさらに促進させる。前年度に引き続き、保護者同士の連携について希望する声があったので、保護者会の定期的な開催と参加への声掛けが必要。

D 非常対応

緊急時対応マニュアルや災害時の避難訓練の実施に関して、認知度が低め。保護者に安心して頂くためにも周知・説明をしていかなければならない。また曜日ごとの利用児全員に実施する必要がある。

E 満足度

児童の通所に加えて、事業所の支援に関しては非常に満足していて高評価である。

事業所内での分析

【共通点】

- ・児童の発達段階の変化に応じて、学習・療育に適した環境を都度設定しなおす必要がある。
- ・活動プログラムに関しては、職員間での試行錯誤をして新しいチャレンジをしている。それが保護者側にも伝わっていて、満足度につながっている。
- ・送迎の受け渡し時やLINE・情報共有システムを使用して保護者との連携を適切に行っている。

【相違点】

- ・支援内容は満足していただいているが、今後児童の学齢があがるにつれそれに応じたプログラムの設定や高学年向けの学習教材などの準備が必要になってくる。また、集団での療育ができるプログラムの検討も必要。

分析・検討してみて…

事業所の強み

- ・職員間での前日振り返りや当日の指導内容の確認を毎日行っているため、支援の見直しや今後の課題の共有ができています。指導員の中で統一した支援の提供がしやすい。
- ・LINEのやりとりや面談だけでなく、送迎の受け渡しの際にも子供の様子などを報告し合い、保護者との連携も密に取れている。そこで得た情報を基に指導にも反映することができる。
- ・教室内での子供達の様子を把握して、それに見合った活動プログラムを実践している。学習と社会性・生活能力向上を目的とした療育をバランスよく提供できる。

事業所の改善点

- ・昨年、保護者会は実施したが都合が合わず参加できない方が多数いたことが現状。今後も定期的な開催を目標とすることに加えて、日程の調整や内容の周知・伝達を早めに行い、参加率をあげていきたい。またそれを通して保護者間での連携が取れる体制を整えていきたい。
- ・避難訓練に関しては、年2回実施しその様子をHPで公開しているが、詳細な内容を周知できていない部分がある。様々な災害を想定した対応を職員間で改めて周知することと、子供たちが全員参加できるように全曜日での実施が必要。

事業所の改善への取り組み

- ・活動プログラムが固定化しないように、工夫された学習指導方法や学齢に応じた取り組みの多彩さが求められる。例えば、アナログゲームはルールが簡単な物はもちろん高学年向けの物も揃えられるようにしていく。また体を動かしたり、協力をしながら進めていけるような運動的・集团的要素のある活動を取り入れることも検討していく。
- ・保護者会、もしくは勉強会の定期的な開催ができるように検討していく。また参加率を上げるために日程の調整や内容の厳選などについて課題。
- ・利用児全員が経験できるように、避難訓練の頻度を増やすことを検討していく。また、その結果を保護者に伝えて、安心して頂ける体制を整えていく。
- ・保護者を通した家庭内の様子だけでなく、子供たちが普段過ごしている場所での様子も支援に大きく関わってくる。学校や他の支援機関との担当者会議を充実させ、支援の質を高める。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

日々の振り返りを基に適切な支援を計画し、さらに試行錯誤を重ねた療育を実践した結果、前年度に引き続き、事業所の支援に関しては満足している、との声を多数いただき、指導員の原動力につながります。今後もより一層、保護者や学校・支援機関との連携を密に行い、児童にとって安心・安全な環境を提供し、支援の質を高めていけるように努力していきたいと思います。

事業所名 オレンジスクール 小岩教室

担当者 児童指導員 戸塚菜摘

保護者等向け放課後等デイサービス自己評価表（公表）

公表：平成31年3月2日 事業所名：オレンジスクール 小岩教室

保護者数（児童数）：40 回収数：29 割合：72%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	26	3	0		
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	27	2	0		
	③	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	16	11	1		
適切な支援提供	④	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画が作成されているか	27	1	0		
	⑤	活動プログラムが固定化されないよう工夫されているか	25	4	0	・集団療育的なプログラムもあると嬉しい。	
	⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	9	15	5	・地域のお祭りに参加するなど工夫されている。	
保護者への説明等	⑦	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	28	1	0		
	⑧	日頃から子どもの状況を保護者に伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	29	0	0		
	⑨	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	13	14	1		
	⑩	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	13	14	1		
	⑪	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	21	6	0		
	⑫	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	29	0	0		
	⑬	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	20	8	0		
	⑭	個人情報に十分注意しているか	28	1	0		
非常時等の対応	⑮	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	18	19	0		
	⑯	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	15	13	0		
満	⑰	子どもは通所を楽しみにしているか	26	3	0		

足 度	⑱	事業所の支援に満足しているか	29	0	0	・子どもの状況などきちんと理解し、適切な対応支援をしてくださり感謝している。
--------	---	----------------	----	---	---	--

○この「保護者向け放課後等デイサービス評価表 集計（公表）」は、保護者の皆様に「保護者等向け放課後等デイサービス評価表」により事業者の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

事業者における放課後等デイサービス自己評価表（公表）

公表：平成31年3月2日 事業所名：オレンジスクール 小岩教室

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	<input type="radio"/>				
	②	職員の配置数は適切であるか	<input type="radio"/>				
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		<input type="radio"/>			
業務改善	④	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	<input type="radio"/>				
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	<input type="radio"/>				
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	<input type="radio"/>				
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	<input type="radio"/>				
	⑧	職員の資質を向上を行うために、研修の機会を確保しているか	<input type="radio"/>				
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	<input type="radio"/>				
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	<input type="radio"/>				
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	<input type="radio"/>				
	⑫	活動プログラムが固定化されないよう工夫しているか	<input type="radio"/>				
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	<input type="radio"/>			利用児童それぞれの学習進度や苦手分野をみて課題設定を行っています。	
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	<input type="radio"/>				
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	<input type="radio"/>				
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	<input type="radio"/>			当日の支援内容は毎日打ち合わせを行っています。	

	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	○			
関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○			
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○			
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか		○		
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○		
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか		○		情報共有システムやLINE等で状況を伝えあっています。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			
保護者	⑳	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			
	㉑	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			
	㉒	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			今年度、第一回を開催しました。今後参加者を増やしていきたいと思えます。

への説明責任等	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			
	③⑤	個人情報に十分注意しているか	○			
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○		
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			
	④⑩	虐待を防止するために、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定をし、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			

○この「事業所向け放課後等デイサービス自己評価 集計（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。